

シンポジウム 「リニアの将来と地域の未来」

～地質学・安全工学・環境科学・公共経済学からみたリニア新幹線計画の諸問題～

リニア中央新幹線は開業時期を「2034 年以降」と JR 東海は発表しています。リニアの 2027 年開業に夢を乗せていた沿線自治体では、突然の発表から困惑が続いています。そこで、もう一度「リニアの計画と現実」を冷静な目で科学的に検証する目的で、このシンポジウムを計画しました。

リニアに賛成や反対を問わず、「リニアの将来と地域の未来」を、みなさんと一緒に考えてみませんか。

★日時 2025 年 5 月 24 日(土) 13:30～16:30

★会場：長野県 飯田市上郷公民館（地図等裏面）

★参加費は無料、資料代お一人 300 円です。予約不要

講師と話題提供タイトル、所属

1. 「南アルプスの地形・南海トラフ地震・活断層」 河本和朗氏
～大鹿村中央構造線博物館顧問・非常勤学芸員

2. 「リニアの安全に禍根を残す短絡的ルート計画」 大塚正幸氏
～技術士(トンネル)、土木学会/応用地質学会/トンネル技術協会会員

3. 「リニア建設工事の破綻と未来への責任」 桂川雅信氏
～日本科学者会議長野支部

4. 「リニア中央新幹線と JR の財務問題：『国策民営』の矛盾」
桜井 徹氏 ～日本大学名誉教授・博士(商学)

5. 総合討論
～講師の発表は各 30 分以内、最後に 20～30 分の総合討論を行います。

裏面に各講師の「お話ししたいこと」などを掲載しております。

★共催：日本科学者会議長野支部
：日本科学者会議リニア中央新幹線問題研究連絡委員会
：リニアから自然と生活環境を守る沿線住民の会
(連絡先・北林…090-1865-8868)

シンポジウム:「リニアの将来と地域の未来」

～地質学・安全工学・環境科学・公共経済学からみたリニア新幹線計画の諸問題～

主催者からひとこと（日本科学者会議長野支部 代表幹事：高須芳雄）

★ 新しいプロジェクトは、しばしばセンセーショナルに報じられます。しかし、成功例がある一方、重大な禍根を残す事例も少なくありません。リニア計画については懸念が広がっており、JR 東海はリスク(危険度)の低減や計画見直し・中止の意見を真摯に受け止めるべきです。研究者・技術者を交えて、リニア計画の問題点と、地域の安全、安心、さらなる発展について、共に考えましょう。

話題提供者から「こんなお話をします」



河本和朗さん

★ 南アルプスは西へ傾きながら隆起する大きなブロックで、西縁は伊那谷活断層帯。ブロック内の地質の古傷は川に掘り下げられて V 字谷。南アルプスは南海トラフ地震の震源域で、強い揺れによる急斜面の崩落で非常口(坑口)の埋没が現実的。もし活断層がずれるとトンネルの食い違いが生じ、時速 500 km で列車が差し掛かると悲惨な事故になる。(専門分野：地質学)

★ 僅か7分短縮を目指すリニアの赤石山地ルートは過去最大の難工事が予測されます。工期と工費と環境破壊さえ問わなければ、トンネルはいつか完成するでしょう。しかし、従来とは全く異なる構造と運転方式のリニアは、異常事態発生時の安全が実験で検証できないなど営業的には未完成な交通システムです。(専門分野：トンネルおよび地盤工学、鉄道工学)



大塚正幸さん



桂川雅信さん

★ 「リニアの開業延期は静岡県のせいだ」と言われてきましたが、これは JR 東海とメディアが流し続けた真実を覆う煙幕です。実際には計画地沿線でもとんでもない事態が噴出しています。私たちは JR 東海が現場から撤退したあとも、未来に向かってこの地に住み続けるのですから、後世の人たちに対して責任ある判断をすべき時と考えます。(専門分野：環境科学、環境政策論)

★ おもに、リニア中央新幹線事業が「国策民営」事業であるという視点から、工事が行き詰まっている要因が、「国策」と「民営」の矛盾の現れであることを JR 東海の財務分析から述べようと思います。国策事業の観点からは工事の早期進展を期待するが、民営事業の観点からは、「健全経営と安定配当」の維持が要請されます。(専門分野：経営学、公益企業論)



桜井 徹さん

上郷(かみさと)公民館へのアクセス

- 住所：飯田市上郷飯沼 3145 番地 1
- 電話：0265-24-7744
- カーナビは上記で検索して下さい。
- 国道 153 号線からは、坂を上り最初の角を右折して下さい。
- 中央高速・座光寺インターからは、矢印の左折から入って下さい。

